

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

(平成30年度)

法人名	社会福祉法人苗場福祉会	代表者	湖山 泰成	法人・事業所の 特徴	法人：本年度創立27年目を迎える。「より地域に密着して、より広域に」を目指し、新潟県を拠点に埼玉、千葉事業部と事業展開し施設数21を擁する大きな法人に成長している。 事業所：開設から5年。住み慣れた自宅での生活が継続できるように、お客様個々のニーズにあわせサービスを提供しています。単身及び高齢者世帯が増加する中、生活の中で心配事や困りごとに寄り添い在宅生活を支えられるように努めています。
事業所名	健康倶楽部むさし野の森	管理者	宮寺 裕子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	1 人	人	人	人	1 人	人	2 人	人	5 人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	・お客様情報共有の場として朝夕礼は継続し、回覧物及び職員連絡ノート等、紙ベースの確認書類各種は適正に分類し簡素化を図る。	・責任番による朝・夕礼の実施。職員確認書類は、業務日誌と職員連絡ノートで内容を分類し情報共有のツールとして活用できている。回覧物においては、リーダー管理を継続し漏れがないか確認できている。	・お客様の身体状況の変化など情報は紙ベースより口頭で伝えた方がよい。 ・フロアが落ち着いている時間を有効に使い、申し送りやミーティングに活用してはどうか。 ・情報収集し精査できる責任番の育成が必要。	・ミーティングや申し送りは、朝夕と定刻だけでなく申し送りや必要な情報は、フロアの落ち着いている時間も活用し職員間で共有していく。 ・情報の集約・伝達を的確にできるように、主任・リーダーが中心となり責任番の育成を行う。
B. 事業所のしつらえ・ 環境	・特養ケアカレッジの野菜市に合わせた認知症カフェの開催及び地域防災訓練への参加、継続的な広報活動により地域密着型サービス事業所としての知名度を上げていく。	・施設の知名度を上げるため、認知症カフェは市の委託を継続し、毎月開催できている。野菜市と併せた開催により、地域住民の参加も増えボランティアの方も5名登録いただいている。	・正面玄関が施設の奥にあるので、入りにくい雰囲気はあるかもしれません。 ・職員さんは明るく挨拶できていました。施錠されていないことも見学時に確認できました。 ・地域住民に施設を周知していただくため、認知症カフェは継続した方がよい。	・認知症カフェの活動を継続し、地域住民の施設周知に繋げていく。また、認知症カフェボランティアの方々にも協力いただき、地域住民が施設行事及び活動へ参加していただけるように発信していく。
C. 事業所と地域のかかわり	・認知症カフェの介護相談窓口は専門職を配置し相談者のニーズに合わせた各種サービスにつなげていく。また、地域の方々が認知症及び認知症カフェの目的を理解し活用につなげられるように認知症サポーター養成講座を開催する。	・介護者の集い・三ヶ島健康まつり・認知症SOS訓練等地域活動へは積極的に参加している。また、小学生の総合学習受け入れ・小学校行事への参加も継続できている。認知症サポーター養成講座は、包括にご協力いただき3月に開催することができた。	・施設開設から地域活動へは、積極的に参加していると思います。地域の医療・福祉関係機関の認知度も高いと思います。 ・公民館やコミュニティセンターの改修工事に伴い地域交流室を地域のために活用していただく取り組みは良いと思います。	・地域活動への参加は、今後も継続し地域関係機関との連携をさらに深めていく。 ・公共施設の改修工事から地域住民やボランティア団体の活動の場が減少している。社会資源として地域交流室を活用していただけるように継続的に発信し、積極的な受け入れを行う。
D. 地域に出向いて 本人の暮らしを支える取組み	・外出行事はお客様と一緒に企画立案し、地域に出向いていく。ご家族様と連携を図りながら、地域資源を有効活用し、ご本人の希望に沿った外出支援を行う。	・お客様の誕生日に希望が叶えられるように誕生日企画として取り上げ外出している。ご家族の都合から定期受診が困難な時は、早期に対応しご本人が通い慣れた病院への通院同行もできている。	・お客様の通院や買い物支援を実施しているが、職員一人が長時間不在になることで施設にいるお客様への介護が手薄になるのではないかと。NPO法人や有償ボランティアなどの紹介をしてみてもどうか。 ・通院同行は、別途料金をもらってはどうか。	・お客様が楽しみにされている誕生日企画は継続し、個別に外出の機会を設けていく。通院支援においては、地域資源も視野に入れたケアプランで位置付けし有効活用していく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	・施設利用のご家族様が参加しやすいように、運営推進会議を土曜日に開催する。また、認知症カフェと併せた会議体を設け、施設活動の周知につなげる。	・運営推進会議構成メンバーの増員については近隣の小中学校やお客様ご家族へご協力いただけるように働きかけているが、学校・就労の都合により参加は難しく増員には至っていない。	・認知症カフェ開催日(土)の運営推進会議により、就労都合で参加できないご家族が参加できる機会となる。 ・土曜日に運営推進会議開催している事業所もある。但し早めにご連絡いただきたい。 ・認知症カフェボランティアの方に会議参加を依頼してはどうか。	・施設利用のお客様ご家族が参加していただけるように、認知症カフェに併せた土曜日に運営推進会議を開催する。認知症カフェボランティアの方々へも参加を依頼し、運営推進会議の活性化を図る。
F. 事業所の 防災・災害対策	・運営推進会議開催に併せて施設自主防災訓練を実施する。構成メンバーの方々に参加していただくことで防災訓練の可視化を図る。	・防災委訓練と併せた運営推進会議の開催には至っていない。防災の観点から、要援護者の受け入れ施設として地域の方々に認知していただけるように地区防災訓練には継続的に参加している。また、地域ケア会議においても社会資源としての役割が担えるように発信している。	・地域ケア会議では、福祉事業所として発信できている。 ・事業所の防災訓練計画は、年度初めに確認している。次年度は、施設自主防災訓練に参加できるように会議の日程調整をしてはどうか。	・運営推進会議を次年度の施設防災訓練年間計画に組み込み作成する。構成メンバーの方々に参加していただくことで、防災訓練・自主訓練の可視化を図る。